



皆さんからのお便り♪

札幌市民水源地の森の下刈り

高田 繁(手稲区)

毎年このボランティアには、何故か多くの方に人気があり、今回6月18日(日)も会長を含め、18名が地下鉄真駒内駅に集合。作業日の中、定山溪国有林の現場を目指して出発。途中、会長から往時の森林鉄道のトンネルの跡の説明等を受け、おおよそ1時間ほどで到着。3班に分かれて、カマと草刈り機で笹を主に木のまわりの草を、陽が良く当てるようにする下刈り作業は、1時間弱で終了。植栽された木々がどの様に育っているか、毎年逢いに行くことは、ボランティア活動の楽しみの一つであるが、特にこの土地に植えたクロエゾマツには思い入れが強い。0・4畝ほどの作業場は、道路のそばが湿地で、そこから坂になっており、石ころの多いデコボコの土地。

厳しい生育環境か、木々の大きさは区々で、この原始林の様な場所でも良く育ててくれたの思い。しかし、ここまで育てば、独り立ちと会長のお話し。下刈りの終了クロエゾマツの森を何度も見返り、昼食後、水源地の森の恵みを少しばかり頂き、帰途について。その中の喬木選び郭公鳴く

皆さんからのお便り♪

自動車運転免許を返上して思うこと

吉本 史郎(手稲区)

今年5月に「清水の舞台から・・・」の心境で運転免許を返上しました。覚悟はしていたものの各種ボランティア、山登り、パークゴルフ、家庭菜園など生きがいともいえる活動に参加が不可能となり、言葉に尽くせぬ寂寥感を味わったものでした。それらの中で唯一「森友会行事」はバス利用が中心であるため、心のよりどころでありました。

ところが、8月11日の「かたらふの森」の除伐作業が(現地集合)となっていることにショックを受け、やむなく無断欠席してしまいました。続いて9月24日の「茨戸川緑地」ドロノキ除伐作業に応募したところ、これまた(現地集合)となっていたので慌てて会長あてに助けを求めました。結果的に天行さんにエルプラザ前に迎えに来てもらい作業に参加することができたのです。さらに作業終了後も札幌駅まで送ってもらうなど至れり尽くせりで、美人運転手の送迎で嬉しさと申し訳なさが交錯し複雑な心境でした。

バスの手配が困難となっている今日、これからは参加者が少ない行事はマイカー乗り合わせか、または(現地集合)が多くなって、行事参加が難しくなることが予想されます。足(車)のない私どもでも、気兼ねなく参加できる体制づくりを心から願っております。



げんきの森づくりと森の学習活動

環境教育・小鳥の村 植樹体験

高橋 喜三雄(中央区)

10月12日、藤の沢小学校の小鳥の村で5年生26人による植樹体験を行った。全体を5班に分け、各班3本ずつ、合計15本のエゾヤマザクラを植えた。班毎に全員で約3メートルの苗にロープを付け、植樹場所まで運びあげ、穴掘り、苗の据付け、土の埋戻しを行った。

今回の植樹場所は一昨年、同じエゾヤマザクラを植えた場所での補植である。小鳥の村では過去数年に亘り定期的にエゾヤマザクラを植えてきた。

しかし春の開花を迎える前に、幼樹の枝先が無残に折られる被害が続出、悪意ある人間の仕業だと考えられてきた。この状態が数年続き、どうやら原因は人間ではなく、残雪期に鹿がエゾヤマザクラを好み、幼樹の新芽を食べるらしいと判断、その対策も施した。今回の対策がどの程度、功を奏するか来春の結果が楽しみである。

環境教育・小鳥の村の下刈作業

川原 邦孝(東区)

下刈作業も慣れてはきたが、まだ今一なのである。井村さん、高橋さんらは相変わらずスピーディーである。学校林のある小学校は全国でいくつあるのだろうか？ 自分も東神楽の山奥・八千代小学校(複式学級)での楽しい学校生活で、先生に習うのは1時限(45分)で15分だけだった。残りの時間は教室のうしろで自習として工作なんか楽しんでた。不登校で休む生徒はいなかった。なぜなら、学校にいる間は農作業の手伝いから開放されるからだ。学校帰りも良く道草して親にしかられたものだ！

退会のことば

行天 純子(清田区)

急な退会のお願いで、大変ご迷惑をおかけして申し訳ありません。家庭の事情により今期で退会いたします。小林会長、会員の皆さま、長い間温かくご指導を賜り本当にお世話になりました。心から厚くお礼申し上げます。

色々な経験や思い出をたくさん戴き、自分でも成長し人生を有意義に過ごすことができました。心から感謝申し上げます。今後もお世話になる機会があるかと思っております。その時は何卒よろしくお願いたします。

皆さんからのお便り♪

